



光る風



【学校教育目標】 やさしく かしく いきいきと

【目指す児童像】 自分も仲間も大切にし、あたたかく認め合える児童

水谷東小学校HP

子どもの力を信じる

新年度が始まって2か月が過ぎました。子どもたちは新しい学年での生活にも慣れ、日々生き生きと学校生活を送っています。

こうして子どもたちが安心して学校生活を送ることができているのも、日頃から支えてくださっているご家庭の皆様のご理解とご協力のおかげです。心より感謝申し上げます。

また、先日の個人面談におきましては、ご多用の中ご来校いただき、ありがとうございます。一人一人のお子様の様子について、学校と家庭とで思いを共有する大変貴重な機会となりました。今後も、こうした機会を大切にしながら、子どもたちの健やかな成長に向けて、学校と家庭が連携して取り組んでまいりたいと考えています。

さて、4月の保護者会では、学校と家庭の役割や子どもとの関わり方についてお話ししました。本号では、その内容をもとに、子どもたちの成長に向けた関わり方について、改めてお伝えします。

学校生活が落ち着いてきたこの時期に、子どもたちのよりよい成長に向けて、学校と家庭が同じ方向を向いていくことの大切さについて、ともに考える機会となれば幸いです。

こうした中、子ども同士の関わりにおいて、大人がどのように関わるのがよいのかを考えさせられる場面も見られます。

「親」という字に込められた意味

「親」という字は、「木の上に立って見る」と書きます。子どものそばに寄り添いながらも、少し離れた位置から見守ることの大切さを示した言葉です。

子どもが困っているときに支えることは、もちろん大切です。しかし、すべての場面に大人が入り込み、問題を整えてしまうことが、必ずしも子どものためになるとは限りません。見守ること、任せることもまた、「守る」ということの一つです。

子どもの話を受け止めることと、その先に必要な視点

子どもが家庭で話をし、それを受け止めてもらえることは、大きな安心感につながります。「自分は守られている」と感じられることは、子どもの成長に欠かせない土台です。

その一方で、子どもの話を多面的に受け止めることも大切です。子どもは成長の過程の中で、「うまく言葉にできない」「自分の思いを優先して伝える」「結果として事実と異なる形で伝わる」ことがあります。これは特別なことではなく、誰もが通る成長の一過程です。

また、「嘘も方便」という言葉があるように、相手を思いやる言葉や、場を和らげるための表現も存在します。

すべてを「正しい・間違い」で捉え、強く正そうとすることは、かえって子どもの心の成長を妨げてしまうこともあります。だからこそ、「子どもの話を大切に受け止めながらも、背景や全体像を冷静に見つめる視点」を大人がもつことが重要です。

大人が前面に出ることの懸念

子ども同士の出来事に対して、大人がすぐに介入し解決を図ることは、一見すると安心につながるかもしれませんが。

しかし、その積み重ねは、「自分で考える力」「相手と折り合いをつける力」「困難に向き合う力」を育てる機会を奪うことにもなりかねません。

また、一方的な情報をもとに他者を否定することは、子ども同士の関係だけでなく、学校と家庭との信頼関係への影響につながることもあります。

子どもの世界に必要な「余白」

子どもたちの世界には、子ども同士でしか分からないことがたくさんあります。その中で試行錯誤しながら、人との関わり方を学んでいきます。

大人が必要以上に関わるのが、必ずしも子どもを守ることに繋がるとは限りません。一歩引く勇気が、子どもの力を育てます。

困難は成長のためにある

「通さぬは通すがための道普請」という言葉があります。目の前の困難は、その先に進むためにあるという考え方です。

子どもたちのつまずきやトラブルも、成長にとって必要な経験です。それをどう乗り越えるかが、子どもの力を育てていきます。

気持ちが揺れたときにこそ大切にしたいこと

子どもに関わる出来事に直面したとき、不安や戸惑い、時には強い思いが生まれるのは自然なことです。その気持ちは、子どもを思うからこそのものであり、大切にしていきたいと思います。

その上で、もし迷いやモヤモヤを感じたときには、「ご近所の方や地域の子育ての先輩に耳を傾けてみる」「少し時間をおいて考えてみる」など、一度立ち止まる時間をもつことも大切です。

地域には、これまで様々な子育てを経験してきた多くの方がいらっしゃいます。そうした方々との何気ない会話の中に、新たな気づきが生まれることもあります。

子どもたちは、家庭や学校に加え、地域の中で育っていく存在です。日頃からのつながりの中で、地域の皆様にも温かく見守っていただくことが、子どもたちにとって大きな安心につながります。

もちろん、学校も子どもたちの成長を支える立場として、保護者の皆様、そして地域の皆様とともに考えていきたいと考えています。気になることがありましたら、ご相談ください。

ただし、一つの見方だけで結論を急がず、事実を丁寧に確認すること、そして家庭・学校・地域がそれぞれの役割を大切にすることが重要です。

特に、放課後や家庭を中心とした出来事については、場面に応じて、ご家庭や地域の中で見守っていただくことも一つの大切な関わりです。

それぞれの立場で子どもを支えることが、子どもにとって最もよい環境につながります。

子どもの成長には、正解が一つではない出来事が数多くあります。

大人がすべてを整えるのではなく、子どもの力を信じ、成長の過程を支えていくこと。それが、学校と家庭に求められる共通の役割であると考えています。

すべては、子どもたちのよりよい未来のために。

今後とも、ご理解とご協力をお願いいたします。